

議会全員研修 報告

8月8日から11日まで3泊4日の日程で議会全員研修を行いましたので報告します。研修先は北海道東地域です。

8日

網走市

人口約4万1000人
面積 470km²
大規模な畑作地帯
「住民参加を求める生涯学習の取組みについて」

生涯学習の取組みについて、オホーツク文化交流センターにて研修。
16年度より「あばしりまなび塾」を開設。現在、



オホーツク文化交流センター
通称エコセンター（網走市）

9日

中標津町

人口 約2万4000人
面積 684km²

酪農・畜産が盛ん

※昭和の合併のとき隣の標津町から分村して以来人口が増え続けているという町。

「住民主体のまちづくりについて」

「パートナーシップを進めるまちづくり町民会議」が17年4月に設立。委員は公募により35名（うち女性5名）町民の目線でまちづくりをどのように進めるかを議論して今年度中に答申を出す予定。

「目指せ起業家支援事業」

大津町と同様に旧商店街活性化の一環として、今年から3ヶ年間の事業。都市計画用途地域内で創業する起業家に、2分の1を限度に最高50万円、その他の地域については、



夏祭りのやぐら（中標津町）

3分の1を限度に20万円の補助を行う。今年度は4件、150万円の予算。

「開陽台の町営牧場」

昭和37年から農業構造改善事業により建設。牧場用地779ha、収容能力1300頭で現在1000頭が放牧。受精卵移植牛保護、人工授精希望牛、妊娠牛、6ヶ月齢牛の放牧を受け入れ。17年度の入牧手数料は約360万円。人件費を含めた維持管理費が約7100万円、3500万円の赤字だが、乳牛と肉用牛の畜産出荷額は、166

億1000万円であり、貢献度は大きい。

8月12日から16日まで夏祭りの準備中。約8千個の提灯に店や人の名前が記入され一個二千円、だそうである。

10日

釧路市

人口 約19万人
面積 約1362km²

17年10月に釧路市、阿寒町、音別町（飛び地）が合併した市。

釧路市は平成5年の釧路市沖地震、6年の北海



釧路リバーサイドにて（遊歩道整備）

道東方地震、15年の十勝沖地震と日本の中でも地震の多いところ。

「火を消した」「お互いの声かけ」「火災に対する不安」「防災に対する家庭での話し合い」

「非常持ち出し品の準備」など市民の地震への関心は高いという。防災センターで、地震模擬体験（M7・0）ができる。

「地下水保全」

釧路市は、上下水道、工業用水など釧路湿原に多くの恩恵を受け、釧路湿原は溜池であり、洪水時の調整池の役割もあり、湿原と釧路川の保全は市民の共通認識になっている。

11日

午前中、釧路リバーサイド整備の見学。

13年度から国の補助事業により一般公募「ふるさとの川推進懇談会」を設置し、市のシンボルである釧路川の川づくりについて話し合ってもらい、川辺のテラスや歩道は市民の散策、憩いの場になっている。